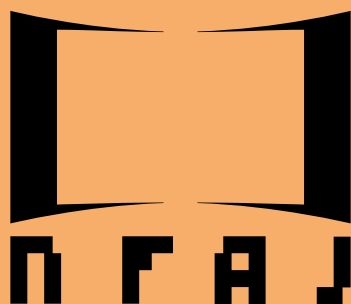




シネマ・エッセンシャル 2019

The Essential Films 2019

2019年8月13日(火) — 8月25日(日)
8月の休館日▶▶▶月曜日



国立映画アーカイブ
National Film Archive of Japan



国立映画アーカイブ[地下1階] 小ホール

定員=151名(各回入替制・全席自由席)

前売券

7月30日(火)10時より、チケットぴあにて全上映回の前売券(全席自由席・各70席分)を販売します。

[Pコード:550-135]

前売料金:一般520円/高校・大学生・シニア310円
/小・中学生100円

- ・別途発券手数料がかかります。
- ・各回の開映後の入場はできません。
- ・学生、シニア(65歳以上)の方は証明できるものをご提示下さい。
- ・チケット購入方法や発券手数料等については、4頁をお読みください。

当日券(発券=地下1階受付)

料金:一般520円/高校・大学生・シニア310円/小・中学生100円/障害者(付添者は原則1名まで)、国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズは無料

◆当日券で入場される方には、開館と同時に、当日上映される全ての回の入場整理券を1階ロビーにて発券します。各日の開館時間については4頁のスケジュール欄をご覧下さい。

- ・各回の開映後の入場はできません。
- ・当日券の発券は、定員に達し次第締切ります。
- ・学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方は、証明できるものをご提示ください。
- ・当日券の発券は各回1名につき1枚のみです。

入場方法

- ①前売券をお持ちの方は、開場時(開映20分前)に、前売券に記載された整理番号順にご入場いただけます。
 - ②その後は、当日券の整理券をお持ちの方が、整理番号順にご入場いただけます。前売券をお持ちの方は、随時ご入場いただけます。
- ・前売券・当日券は当日・当該回のみ有効です。

小ホール
上映作品

シネマ・エッセンシャル 2019

The Essential Films 2019

音楽、美術や演劇においても“クラシック”作品があるように、映画の世界でも、その歴史を形作ってきた数々の基礎的な重要作があります。しかし現在、そうした過去の作品は動画配信サービスや映像ソフトを通じて観ることが主流になっており、その本来の姿である、フィルムによるスクリーン上映の機会はますます稀少になっています。そのような環境の中、国立映画アーカイブが2018年に開始した企画がこの「シネマ・エッセンシャル」です。所蔵のフィルムコレクションをベースに、本年度は日本映画の重要な監督から溝口健二・豊田四郎・増村保造・藤田敏八の4名を取り上げ、改めてこれらの作品の価値を世に問います。初めて昔の日本映画をご覧になる若い方から、往年の映画ファンの方までご一緒にお楽しみください。

■◎=監督・演出 ◎=原作・原案 ◎=脚本・脚色
◎=撮影 ◎=美術・設計・舞台装置 ◎=音楽
◎=出演

■スタッフ、キャスト欄の人名は原則として公開当時の表記を記載しています。

■特集には不完全なプリントや状態の悪いプリントが含まれていることがあります。

■記載した上映分数は、当日のものと多少異なることがあります。

1 8/13(火)1:30pm 8/17(土)3:00pm

浪華悲歌(72分・35mm・白黒・英語字幕付)

1923年に日活向島作品『愛に甦る日』で監督デビューした溝口健二の監督60作目。横領事件を起こした父親のために妾になるなどし、そのために自分の恋人のみならず兄弟たちからも冷たくあしらわれる女(山田)の姿をリアリスティックな手法で描く現代劇。舞台の大阪が持つローカルな気質と近代都市のモダンな雰囲気がいっしょに捉えられ、モダニズムの香る生き生きとした傑作となった。

1936(第一映画)◎◎溝口健二◎◎依田義賢◎◎三木稔◎◎山田五十鈴◎◎梅村蓉子◎◎大倉千代子◎◎大久保清子◎◎浅香新八郎◎◎志賀迺家辨慶◎◎進藤英太郎◎◎田村邦男◎◎原健作◎◎橋光造◎◎志村喬◎◎竹川誠一◎◎滝沢幹子

2 8/13(火)5:00pm 8/21(木)4:30pm

残菊物語(143分・35mm・白黒・英語字幕付)

村松梢風の同名実録小説を依田義賢が脚色。自らの芸に慢心した二代目尾上菊之助(花柳)と、彼の歌舞伎役者としての復活を後押しし続けたお徳(森)の悲恋の物語。東京から大阪へ、そして旅回りの一座へと墮ちていく二人を、溝口は得意の長回しでじっくりと描き出した。戦後に至るまで多くの溝口作品で美術監督をつとめた水谷浩による、壮重かつ緻密に計算されたセットも光る。

1939(松竹京都)◎◎溝口健二◎◎村松梢風◎◎依田義賢◎◎三木滋子◎◎藤洋三◎◎水谷浩◎◎深井史郎◎◎花柳重太郎◎◎森赫子◎◎高田浩吉◎◎川浪良太郎◎◎高松錦之助◎◎葉山純之輔◎◎尾上多見太郎◎◎結城一朗◎◎南光明◎◎伏見信子◎◎中川芳江◎◎河原崎權十郎◎◎梅村蓉子

3 8/14(水)1:30pm 8/25(日)12:00pm

西鶴一代女(136分・35mm・白黒)

井原西鶴の「好色一代女」が原作。封建的な男性本位の社会の中で、悲惨な運命に翻弄される女の生涯が、流麗なカメラワークで描かれる。御所の若い女中が年老いた街娼となるまで、主役のお春をひとりで演じつた田中絹代の演技に圧倒される。ヴェネチア国際映画祭で国際賞を受賞し、海外にその名を知らしめた戦後の溝口を代表する作品。

1952(新東宝=児井プロダクション)◎◎溝口健二◎◎井原西鶴◎◎依田義賢◎◎平野好美◎◎水谷浩◎◎芥藤一郎◎◎田中絹代◎◎山根壽子◎◎三船敏郎◎◎宇野重吉◎◎菅井一郎◎◎進藤英太郎◎◎大泉滉◎◎清水将夫◎◎加東大介◎◎小川虎之助◎◎柳永二郎◎◎原駒子

4 8/14(水)5:00pm 8/24(土)3:00pm

若い人(81分・35mm・白黒)

1929年の監督デビューから70年代まで長く活躍した豊田四郎の戦前の代表作。豊田は後に文芸映画で特に名を馳せるが、本作も当時ベストセラーであった石坂洋次郎の小説が原作。ミッションスクールの教師の間崎(大日方)は、自らを慕う問題児の恵子(市川)を庇護するも、彼の方針は同僚の橋本(夏川)をはじめとする周囲の人から理解されなかった。そんななか、恵子が妊娠したとの噂が流れ、間崎に疑いの目が向けられる。

1937(東京発声)◎◎豊田四郎◎◎石坂洋次郎◎◎八田尚之◎◎小倉金次郎◎◎河野鷹忠◎◎久保田公平◎◎津川主一◎◎市川春代◎◎大日方傳◎◎夏川静江◎◎英百合子◎◎山口勇◎◎伊藤智子◎◎林千歳◎◎井上千枝子

5 8/15(木)1:30pm 8/25(日)3:30pm

夫婦善哉(120分・35mm・白黒)

昭和初期の上方を背景に、俗にまみれた放蕩息子と、そんな男を捨てられない芸者上がりの女との切っても切れない腐れ縁を描く。豊田が人情の機微をきめ細かく描写し、文芸映画作家としての本領を発揮した。どこか憎めないダメ男を演じた森繁久彌と、彼を叱咤しながらあくまで尽くしぬく女を演じた淡島千景が、絶妙に呼吸の合った演技を見せる。

1955(東宝)◎◎豊田四郎◎◎織田作之助◎◎八住利雄◎◎三浦光雄◎◎伊藤嘉朗◎◎團伊玖磨◎◎森繁久彌◎◎淡島千景◎◎司葉子◎◎浪花千栄子◎◎山茶花究◎◎小堀誠◎◎田中春男◎◎田村樂太◎◎森川佳子◎◎志賀迺家弁慶◎◎萬代峰子◎◎三好榮子◎◎上田吉二郎◎◎澤村宗之助◎◎谷晃◎◎若宮忠三郎◎◎三條利喜江

6 8/15(木)5:00pm 8/23(金)1:30pm

駅前旅館(109分・35mm・カラー)

団体客でいつもにぎわう上野の老舗旅館を舞台に、風紀向上のため客引き追放運動に奮闘する番頭(森繁)と、個性的な従業員たちが繰り広げる風俗喜劇。森繁久彌、フランキー堺、伴淳三郎など、当時の東宝の喜劇人たちが勢揃いしている。当初は井伏鱒二の同名小説を原作にした文芸映画として企画されたが大ヒットを記録し、1961年に公開された第2作『喜劇駅前団地』(久松静児)よりシリーズ化された。

1958(東京映画)◎◎豊田四郎◎◎井伏鱒二◎◎八住利雄◎◎安本淳◎◎松山崇◎◎團伊玖磨◎◎森繁久彌◎◎フランキー堺◎◎伴淳三郎◎◎淡島千景◎◎草笛光子◎◎淡路恵子◎◎藤木悠◎◎多々良純◎◎左全◎◎森川信◎◎山茶花究◎◎三井美奈◎◎浪花千栄子



浪華悲歌



残菊物語



西鶴一代女



若い人



夫婦善哉



駅前旅館

7 8/16(金)1:30pm 8/24(土)12:00pm

くちづけ (73分・35mm・白黒)

撮影所の徒弟制度のなかで映画作りを学ぶだけでなく、ローマの国立映画実験センターに留学した経験を持つ増村保造の鮮烈な監督デビュー作。ともに犯罪者を父に持つ若い男女(川口、野添)が、面会に訪れた拘留所で知り合い、恋におちる。増村は情緒を排した乾いたタッチでスピーディに描いてみせ、日本映画界に新風を吹き込んだ。

1957(大映東京)◎増村保造◎川口松太郎◎舟橋和郎◎小原謙治◎下河原友雄◎塚原哲夫◎川口浩、野添ひとみ、三益愛子、若松和子、清水谷薫、入江洋佑、小澤栄太郎、若松健、河原侃二、吉井莞象、村瀬幸子、見明凡太郎

8 8/16(金)5:00pm 8/22(木)2:00pm

清作の妻 (93分・35mm・白黒)

老人の妾だった過去を持つ女(若尾)が、村の模範青年(田村)と結ばれ、村人の冷やかな視線に抵抗しながら愛を突き通していく。日清戦争時の閉鎖的な村社会を舞台に、差別や偏見と戦う女の凄まじい生き様が強烈な印象を残す一作である。『青空娘』(1957)以来、長年コンビを組んできた若尾文子が増村の追究する「近代的人間像」を見事に具現化している。

1965(大映東京)◎増村保造◎吉田絃二郎◎新藤兼人◎秋野友宏◎下河原友雄◎山内正◎若尾文子、田村高廣、千葉信男、紺野ユカ、殿山泰司、早川雄三、成田三樹夫、潮万太郎、穂高の子、杉田康、佐々木孝丸

9 8/17(土)12:00pm 8/22(木)5:00pm

曽根崎心中 (112分・35mm・カラー)

大映倒産後フリーになった増村が行動社で撮った最後の作品。映画初主演の宇崎竜童は増村の演出に従い「強くあえて死ぬ気で」演じ、独特の存在感を示した。義理でも人情でもない女と男の壮烈な「意地」と「誇り」を近松物のうちに凝縮。まるで絶叫するような台詞回しが恋を貫く男女の強い情念を感じさせる増村後期の金字塔。

1978(行動社=木村プロ=ATG)◎増村保造◎近松門左衛門◎白坂依志夫◎小林節雄◎間野重雄◎宇崎竜童◎梶芽衣子、左幸子、井川比佐志、橋本功、灰地順、目黒幸子、加藤茂雄、伊藤正博、木村元、千葉裕子



清作の妻

10 8/20(火)2:00pm 8/23(金)4:30pm

新宿アウトロー ぶっ飛ばせ (86分・35mm・カラー)

出所したばかりのやくざの西神(渡)は、密売していたマリファナを奪われた松方(原田)に頼まれ、二人で強大な犯罪組織に戦いを挑む。藤田敏八は繁矢の名前で監督した『非行少年 陽の出の叫び』(1967)で監督デビュー。劇映画監督作としては4作目となる本作は、劇団俳優座出身の新進スター原田芳雄が、同年代ながら日活を代表するスターとして、すでに名を馳せていた渡哲也と対等な役割を果たしている点で、日本映画の基盤となっていた撮影所システムの転換を象徴する作品である。

1970(日活)◎藤田敏八◎永原秀一、蘇武路夫◎萩原憲治◎千葉和彦◎玉木宏樹◎渡哲也、原田芳雄、梶芽衣子、成田三樹夫、沖雅也、高樹蓉子、今井健二、中島葵、原田千枝子、山野俊也、前野霜一郎、地井武男



くちづけ



曽根崎心中



新宿アウトロー ぶっ飛ばせ



八月の濡れた砂

11 8/18(日)12:00pm 8/20(火)5:00pm

八月の濡れた砂 (91分・35mm・カラー)

真夏の湘南を背景に、暴力とセックスに耽溺する青春を目まぐるしいカメラワークで瑞々しく描いた藤田の代表作。日活ニューアクションからロマンポルノへの転換期に作られた青春映画である。終盤、大海原のヨットでやり場のない怒りを爆発させる若者の姿と、それでも静かに海を浮遊し続けるヨットの克明な対比が、当時の若い世代の閉塞感を描き出している。

1971(日活)◎藤田敏八◎峰尾基三、大和屋竺◎萩原憲治◎千葉和彦◎むつひろし、べべ◎村野武範、広瀬昌助、テレサ野田、藤田みどり、隅田和世、奈良あけみ、八木昌子、三田村元、山谷初男、中沢治夫、赤塚直人、原田千枝子、牧まさみ、原田芳雄、地井武男、渡辺文雄

12 8/18(日)3:00pm 8/21(木)2:00pm

妹 (92分・35mm・カラー)

同棲先からひょっこり戻ってきた妹(秋吉)を、戸惑いながらも温かく迎え、恋人のように振る舞う兄(林)。ロマンポルノ時代の日活にあって、一般向けの青春映画で気を吐いた藤田監督の『赤ちょうちん』(1974)に続く秋吉久美子主演作。時代のやるせない雰囲気も体現する、捉えどころのない秋吉の妹役が印象的。フォークソング・グループかぐや姫のシングル「妹」をモチーフに製作されている。

1974(日活)◎藤田敏八◎内田栄一◎萩原憲治◎横尾嘉良◎木田高介◎秋吉久美子、林隆三、吉田由貴子、初井言栄、吉田日出子、村野武範、藤田弓子、片桐夕子、沢田みゆき、ひし美ゆり子



妹

シネマ・エッセンシャル 2019

The Essential Films 2019

月	火	水	木	金	土	日
8月	11:00am開館 1 浪華悲歌 1:30pm (72分)	11:00am開館 3 西鶴一代女 1:30pm (136分)	11:00am開館 5 夫婦善哉 1:30pm (120分)	11:00am開館 7 くちづけ 1:30pm (73分)	11:00am開館 9 曾根崎心中 12:00pm (112分)	11:00am開館 11 八月の濡れた砂 12:00pm (91分)
	13	14	15	16	17	18
	2 残菊物語 5:00pm (143分)	4 若い人 5:00pm (81分)	6 駅前旅館 5:00pm (109分)	8 清作の妻 5:00pm (93分)	1 浪華悲歌 3:00pm (72分)	12 妹 3:00pm (92分)
	10 11:00am開館 10 新宿アウトロー ぶっ飛ばせ 2:00pm (86分)	12 11:00am開館 12 妹 2:00pm (92分)	8 11:00am開館 8 清作の妻 2:00pm (93分)	6 11:00am開館 6 駅前旅館 1:30pm (109分)	7 11:00am開館 7 くちづけ 12:00pm (73分)	3 11:00am開館 3 西鶴一代女 12:00pm (136分)
	11 11:00am開館 11 八月の濡れた砂 5:00pm (91分)	2 11:00am開館 2 残菊物語 4:30pm (143分)	9 11:00am開館 9 曾根崎心中 5:00pm (112分)	10 11:00am開館 10 新宿アウトロー ぶっ飛ばせ 4:30pm (86分)	4 11:00am開館 4 若い人 3:00pm (81分)	5 11:00am開館 5 夫婦善哉 3:30pm (120分)
	19	20	21	22	23	24

■作品によって開映時間が異なりますのでご注意ください。

展示室(7階)

【企画展】

キネマ旬報創刊100年記念 映画イラストレーター 宮崎祐治の仕事

The Works of Yuji Miyazaki, Illustrator for Films
At the Centenary of Kinema Junpo Magazine

2019年4月23日(火)～8月25日(日)

*月曜日は休室です。

主催:国立映画アーカイブ

特別協力:宮崎祐治/協力:株式会社キネマ旬報社

宮崎祐治氏は、2019年に創刊100年を迎える「キネマ旬報」誌を中心に、数々の映画雑誌、カレンダーや書籍の装丁、ポスターなどに作品を提供し、40年以上にわたって映画ファンに親しまれてきました。本展覧会では原画を中心に、その映画イラストレーションの魅力に迫ります。

*詳細は当該チラシまたは国立映画アーカイブのホームページをご覧ください。

NFAJ Digital Gallery
NFAJデジタル展示室
Digital Gallery
下記ホームページからお入りください
<https://www.nfaj.go.jp/online-service/digital-gallery>



『アニー・ホール』(「CINEMA CALENDAR 2005」より)

アーティスト・トークのご案内

7月27日(土)3:00pmより
「好きなことを仕事にすること」
対談:金子修介氏(映画監督)×宮崎祐治氏

8月17日(土)4:30pmより
「文芸坐とキネマ旬報が私をつくった」
トーク:宮崎祐治氏

会場:展示室ロビー(7階)
*予約不要、参加無料

【常設展】企画展に併設

NFAJコレクションでみる 日本映画の歴史

Nihon Eiga: The History of Japanese Film
From the NFAJ Non-film Collection
[Captions in Japanese, English, Chinese and Korean]

開室時間＝午前11時～午後6時30分(入室は午後6時まで)
*毎月未金曜日は午前11時～午後8時(入室は午後7時30分まで)
料金(常設展・関連企画共通)＝一般250円(200円)/大学生130円(60円)/シニア・高校生以下及び18歳未満・障害者(付添者は原則1名まで)、国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズは無料

* ()内は20名以上の団体料金です。
* 学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方は、証明できるものをご提示下さい。
* 国立映画アーカイブが主催する上映会の観覧券(半券可)をご提示いただくと、1回に限り団体料金が適用されます。

常設展ギャラリートーク

原則として毎月第一土曜日12時より
8月3日、9月7日

前売券の購入方法

[Pコード:550-135]

チケットぴあ店舗、セブン-イレブンで購入

▶7月30日(火)より各プログラムの前日まで

⇒前売料金に加え、1枚につき発券手数料108円がかかります。

受付電話(0570-02-9999)で購入

▶7月30日(火)より各プログラムの4日前23:59まで購入可能

⇒前売料金に加え、1枚につき発券手数料108円がかかります。

* 毎週火・水2時30分～5時30分はシステムメンテナンスのため受付休止となります。

チケットぴあのサイト(<https://w.pia.jp/v/nfaj-essential2019/>)で購入

▶購入時期によってご利用可能な決済方法が異なります。

⇒前売料金に加え、1枚につき発券手数料108円、また決済方法によって1件につき決済手数料がかかる場合があります。

* 手数料等の詳細については、上記チケットぴあのウェブサイトをご覧ください。

前売券の払い戻し、交換、再発行はいたしません。

2階受付では、「NFAJニュースレター」(季刊)を販売しています。これは、国立映画アーカイブのさまざまな催し物や事業の情報、上映番組の解説、予告等はもちろんのこと、世界のフィルムアーカイブやシネマテークの紹介、映画史研究の先端的成果の発表などを掲載する機関誌です。どうぞご利用下さい。

fiaf

国立映画アーカイブは、国際フィルムアーカイブ連盟(FIAF)の正会員です。

FIAFは文化遺産として、また、歴史資料としての映画フィルムを、破壊・散逸から救済し保存しようとする世界の諸機関を結びつけている国際団体です。



国立映画アーカイブ 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6

▼交通:

東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分

都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分

東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分

JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ:ハローダイヤル03-5777-8600

ホームページ: www.nfaj.go.jp

Twitter: @NFAJ_PR Facebook: NFAJPR

Instagram: nationalfilmarchiveofjapan

表紙:『八月の濡れた砂』(1971)